

□ 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。なお、句読点・記号は字数に数えます。

それでは、ここで記憶の種類について考えてみましょう。記憶研究の世界的権威者であるカリフォルニア大学サンディエゴ校のスクワイア教授は、記憶をいくつかの種類に分類しています。

ふつう、私たちが記憶として理解しているのは、海馬を介在させた知識や出来事の記憶です。これらは「①宣言的記憶」、あるいは「②顕在記憶」と呼ばれます。

宣言的記憶は2つの種類に分類されます。「意味記憶」と「エピソード記憶」です。私たちが学生時代に学んだいわゆる「暗記物」と称せられる知識は、そのほとんどが意味記憶です。「自動車はガソリンで走る」とか、「フランスの首都はパリである」といったようなすべての人間に共通の事実は、意味記憶です。

エピソード記憶とは、「昨日家族で近くのレストランに行つて夕食を食べた」とか、「彼女といっしょに映画『崖の上のポニョ』を観にいった」というような、自分の体験に関する記憶です。どうしてこのような分類になったかというところ、この2種類の記憶のメカニズムが異なっているからです。

それに関して、カナダの記憶障害の患者の実例があります。彼は自分の自動車の写真を見ると、それが自分の自動車であることはナンなく認識できました。□ 「昨日この自動車で行きましたか？」とい

う質問には、まったく答えられなかったのです。つまり、彼は意味記憶に關しては正常だったのですが、エピソード記憶を保持する能力が失われてしまったのです。

思い出という記憶は、その人の成長によってどんどん増殖し、それがその人間の個性というものを形成していきます。つまりエピソード記憶は、その人間が死ぬまで休むことなく脳に刻み続けられていくのです。そして、その人間特有の記憶の糸によって織りあげられた、この宇宙に1つしかない「体験という絨毯」をつくりだしています。

もちろん、意味記憶とエピソード記憶がメカニズムとしてどのように記憶されるのか、あるいは記憶されている脳の部位がどう違うのかなど、まだまだ解明されていないことも多いのです。

□ 「非宣言的記憶」、あるいは「潜在記憶」と呼ばれているものですか？ それは「非宣言的記憶」、あるいは「運動技能反射」です。スポーツの技術や陶芸、器演奏などのジュークレンの技術は、すべてこれに属します。

一般的に私たちが「頭のよい人間」とテイギしているのは、意味記憶がすぐれた人間のことを指しています。しかし、前にも述べたように、甲子園に出場する高校球児やヴァイオリンの天才も、実はそれ以上に「頭のよい人間」なのです。

もう1つの非宣言的記憶の代表的なものが、「条件反射」です。道を歩いていて、ヘビが藪からでてきたとたんに反射的に「キヤー」と声をだして飛び上がるのが、そのテンケイ例です。あの有名な「パプロフの犬」の

実験以来、この研究は相当進んでいます。

進化の過程から見れば、まず人間は非宣言的記憶である条件反射や運動技能反射を手に入れたのです。次に、ほかの動物との差別化を図るために、宣言的記憶を身につけたといえます。

人間の進化の過程の中で、私たちは新しい「ケイタイ」の記憶をどんどん獲得してきました。しかし一方で、情報を詰め込むことだけが進化ではないということも、そろそろ私たちは悟らねばならない時代に差しかかっているのも事実なのです。

(児玉光雄『マンガでわかる記憶力の鍛え方』より)

\*海馬を介在させた…「かいば」という名前の脳の一部分を通して処理された

された

\*エピソード……ちよつとした興味のある話。

\*メカニズム……物事のしくみ。

\*増殖……ふえること。

\*脳の部位……脳の中の位置。

\*陶芸……やきもの。

\*「パプロフの犬」の実験…犬にベルを鳴らしてエサを与えることをくり返すと、ベルをならしただけで反射的につばを出すということを確認した実験。

問八 —線⑤「それ以上に『頭のよい人間』について、次の問にそれぞれ答えなさい。

- (1) 「それ」とは何を指していますか。文中から十一字でぬき出しなさい。
- (2) 「それ以上に『頭のよい人間』」とはどのような人間ですか。文中のこ とばを使って、十五字以内で答えなさい。

問九 本文の内容と合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 私たちが記憶と理解している顕在記憶こそが、将来の人間の進化に必要である。
- イ 人間は進化の過程で、非宣言的記憶を必要とせず、宣言的記憶を獲得していった。
- ウ 宣言的記憶だけでなく、潜在記憶にも目を向けるべき時代に差しかかっている。
- エ 次の進化のために、われわれはより新しいかたちの記憶を手に入れるべきだ。

問一 ……線aとeのカタカナを漢字に直しなさい。

問二 —線A「の」と同じ働きのものを、—線アとエの中から一つ選び、記号で答えなさい。

問三 —線IとIIに入る最も適当なこばを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

問四 —線①「宣言的記憶」とありますが、人間が「宣言的記憶」を手に入れた理由を文中から十五字でぬき出しなさい。

問五 —線②「宣言的記憶」について、本文の内容と合うものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア「昨日友人と公園で遊んだ。」といった記憶は、エピソード記憶である。

イ「あしたサッカーの試合を見に行く。」といった記憶は、エピソード記憶である。

ウ「キャベツは野菜だ。」といった記憶は、意味記憶である。

エ「わたしは辛い物が好きだ。」といった記憶は、意味記憶である。

オ 天才的テニスプレーヤーの技術は、宣言的記憶である。

問六 —線③「この2種類の記憶のメカニズムが異なっている」ことを示す実例を、文中から四十四字で探し、その最初の五字をぬき出しなさい。

問七 —線④「この宇宙に『体験という絨毯』とは、何をたとえたものですか。文中から十字でぬき出しなさい。

— 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。なお、句読点・記号は字数に数えます。

① 犬を飼ってほしいといったのはほくだった。

両親に連れられて、デパートのペットショップの柵の中の子犬たちを見

たときのことだった。柵の中をのぞきこむと、子犬たちは、かわいい鼻がつぶれるほど柵にお

しつけて、「ほくを飼って」「わたしを飼って」というように、

「ワン、ワン！」とほえていた。

「あつ、この犬かわいい。これを飼ってよ」

ほくは、そのうちの二匹を、ママにゆびさしていった。

「犬は散歩させないといけないのよ。すぐ、あたまがイタいて、学校

休むあなたにできる？ 毎日のことよ」

「できるよ」

ほくは、大きな声でいった。

ほくのことばがわかったわけではあるまいけれど、子ぐまのよう

なところとふとった黒い子犬は、ほくに鼻をおしつけるように「クン、クン」

とナっていた。

「よし、飼ってやろう」

と、パパがいったので、「うわあい」とほくはさげんだ。でもパパは、そ

のあと、「ああ、だが、血統書つきのもつとりつばな犬をな」

と、つけくわえると、ママも、

「あわてないで、パパにまかせなさい」

「そのかわり、学校へは、かならず行くんだぞ」といった。

血統書なんてどうでもいい、といたかったけれど、それはパパに対しては、むだだと知っているほくは黙ってしまつた。

一月後、チームズはパパにつれられて、この久保家へやつてきた。

パパは、もつとりつばな犬をといつたが、1 チームズはみごとにシエバードであつた。

二歳になるチームズは、もうりつばな成犬であつた。

チームズは、ユニウ品をあつかつているパパの取り引き先の、イギリス商会の重役リチャードさんが、わざわざ本国から送らせてきた犬であつた。

「じゅうぶん、しつげはしてある。安心、だいじよぶね」

リチャードさんは、りゆうちような日本語で話した。

ママは、外国人の客が来ると和服を着る。この日はあじさい色の和服を着て、ビールを運んできたママは、卓上に広げてあるチームズの血統書を見て、

「りつばなものですわね」といつてから、ほくを振りかえつて、

「よかつたわね、茂さん」

と微笑んだ。

④「うん」と、小さくうなずいたものの、ほくはこのとき、いつかデパート

にでる。市内を流れる川にそつて、五年前、市の公園整備課の手入れで、道路ばたに四季の花をうえ、あずま屋をたてたりしてきれいな遊歩道だつた。

ほくが、はじめてチームズを散歩させたとき、向こうからシベリアンハスキーを連れた中年の女の人が、

「あらつ、りつばな犬ねえ。シエバードでしょう」

と声をかけた。

ほくは、ちいさな声で「そうです」と答えただけだつた。

「ドッグショーで入賞したんですつて?」

なあんだ、知っているんじゃないか。パパから聞いたんだらう。

チームズは、目をりんと張つて顔をあげているが、シベリアンハスキーは、恐れ入つて目をふせているみたいだつた。

「いくつくらいかしら?」

「さあ……」

「利口なんでしょう?」

「さあ……」

女の人は、まだ話したそうであつたが、チームズはほくの顔を見て、もういいから行こうと、うながしているようであつた。

しばらくいくと、あずま屋の前にさしかかつた。ベンチのまわりには、三、四人、犬を連れた散歩仲間らしい人たちがいた。どうやら、ここは、

こういう人たちのたまり場であるらしかつた。そのうちのひとりが、  
「ほうや、いいシエバードを飼つてるね。利口だらう」

のペットショップで見た黒い子犬を思い出していた。

チームズの血統書は、額におさめて応接間にかざられた。

パパは、取り引き関係の客や銀行員が、わが家にくると、2 血統書を指さして説明し、そのあと、庭に出てチームズを見せるようになった。

チームズは、日当たりのよい庭のすみの柵の中で飼われている。

3 その柵のすみに寝小屋も置いてある。

シエバードは、強くて鼻がきくので、軍用犬や警察犬に適している。たしかにチームズは黒と灰色がかったぶちの毛なみと、そのルックスはもろんのこと、利口であつた。

チームズの散歩は、たいていはパパかママがするが、日曜日や休日ほくの仕事となつた。でも、夏休みになつたので、ほくが散歩に連れだすことが多くなつた。といつても、ほくが好んだことではない。チームズとは、はじめから、なんとなく相性が悪いみたいだつた。

⑤チームズをはじめて散歩に連れだしたとき、チームズは、見送るパパを見て、すぐ歩きだそうとしなかつた。

「はつ、はつ、は、は、は」

と、葉巻をくわえたまま、パパは笑つて、

「チームズのやつ、茂では役不足、という顔をしてるぞ」

といつた。

チームズの散歩のコースは決まつていた。

門を出て、広いバス通りを横切つて、住宅街のあいだをゆくと、遊歩道

といつて、近づいてきた。

「そうみたいです」

と、ほくはいつたが、うれしくはなかつた。

たしかにチームズは利口といえはいええると、ほくはこのあいだの、4 愉快でなかつたことを思い出した。

パパとママは、ほくを有名私立中学に進学させようと塾に入れた。だが、ほくの成績はいまいちである。

「どうして成績があがらないのでしょうか」

ママに聞かれた家庭教師の中村先生は、

「勉強がたりないんです。宿題もわすれることが多いんです」

このひとことが、ママからパパに伝わつたらしい。

土曜日、ほくはまた学校をやすんだ。クラスの男子は、午後サッカーをやることになつてた。どうせほくは、だれにもさそつてもらえない。さびしい思いをするのはいやだからやすんだ。

その日曜日、ほくは庭にいるパパに呼ばれた。

パパはホースで水をまいていた。まだセイカには早いの、三十度ちかい午後であつた。

「茂、足もとを見なさい」

パパは、植木に水をかけながら、あごで地面をさした。

「どうしたの?」

「この暑さなのに蟻はせっせとはたらいている」  
なるほど、夏の日をあび、黒く光りながら、無数の蟻がせわしく動きま

わっている。

それで、どうなの？ とパパの顔を見あげると、

「きのうも学校やすんだそうだな」

ぼくは小さくうなずくほかなかった。パパはそのあと、なにもいわなかった。

このとき、柵の中でチームズが、ぼくたち親子をみて、かるく「ワーンー」とほえた。

「冷たい水ととりかえてやろう」

と、パパは、ぼくを振りかえつた。

ぼくは、小屋の中の容器の水を捨て、新しい水にとりかえてやった。

すると、チームズは軽くしっぽを振ってみせるものの、その目は、パパに向けられていた。ぼくが水をあげたのに、それは父親に命令されたからなのだと、チームズは知っているのだろうか。それとも、父親に、働いている蟻を見せつけられ、頭をたれて叱られていたぼくに気づいたのだろうか。飼いだは、その家族のひとりひとりの地位を、すばやく読みとって、それに応じた反応をするというから、ぼくをばかにしているのかもしれないと思った。

夏休みになったので、ぼくは毎日、チームズを散歩に連れていかなければならなくなった。

ぼくは、チームズの散歩に、れいの遊歩道に行くのはやめにした。

犬じまんのおじさん、おばさんたちに会いたくはなかったからだ。

反対の方角をゆくと、私鉄の踏切がある。そこを渡って、住宅街をいく

問一 線a-eのカタカナを漢字に直しなさい。

問二 1 4 に入る最も適当なことを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 決して イ さらに ウ たしかに
- エ かならず オ たぶん カ あまり

問三 線I「たしかに」・II「まだ」はどこにかかりますか。それぞれ記号で答えなさい。

I たしかに ア チームズは イ 黒と灰色がかった ウ ぶちの毛なみと、  
エ そのルックスは オ もちろんのこと、利口であった。

II ア また イ セイカには ウ 早いのに、エ 三十度ちかい オ 午後であった。

問四 文中には次の一文がぬけています。どの文の後に入れるのが適当ですか。その文の最初の五字をぬき出しなさい。

つまり、このおばさんは、話がしたいだけなんだと思った。

つか折れ曲がると、多摩川の土手へ出る。堤防の上は、自動車をはしっている。

ぼくは、堤防にあがって、ひそかにこれはいいと思った。あまり犬の散歩をする人は見かけない。河原を見下ろすと、ぼくと同じくらいの男の子が、ひとり犬を遊ばせていたが、棒を投げては犬にくわえさせるといふ子どもらしいことをしている。

堤防の道を五分ほどゆくと、堤防の下に小さな寺があった。せまいケイダイにブランコとすべり台が置いてある。

おりてゆくと、「妙香寺遊園地」と、たいそうな名がついているが、遊んでいる子はだれもいない。

ケイダイのすみに、寺にあわないうりっぱな楠の大木が、涼しげにみどりの葉を空いっぱい茂らせていた。

これはいいと、ぼくはつぶやいて、チームズを楠につないでポケットから文庫本『坊っちゃん』をとりだし、雨ざらしの小さなベンチに腰をおろした。

いくらチームズが利口でも、口をきけない以上は、いつつけられる心配はない。とはいふものの、かすかな良心のイタミを感じないわけではなかった。でも、パパ、ママにかくれてる、夏の木かげの読書は楽しかった。

(浜野卓也『さよなら友だち』所収「ぼくとクロ」より)

\* りゅうちよう …… ことばをすらすらと話すようす。  
 \* 葉巻 …… タバコの種類。  
 \* あずま屋 …… 公園などに休憩などのために置かれた小さな建物。  
 \* りんと …… きりりと引きしまったようす。

問五 線①「犬を飼ってほしい」と主人公が言ったのはなぜですか。

最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 黒く小さな子犬があまりにもかわいかったから。
- イ 自分を必要とする存在がほしかったから。
- ウ 血統書付きの立派な犬がほしかったから。
- エ 学校に行くきっかけを作ったから。

問六 線②「それ」はどのようなことを指していますか。文中のことはを使って、二十字以内で答えなさい。

問七 線③「パパに対しては、むだだ」とありますが、どうしてそう思うのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア パパは見事な犬が好きで、小さな犬はきらいだから。
- イ パパは一度言い出したら後に引けない性格だから。
- ウ パパはいつも自分のことばかりで僕には関心がないから。
- エ パパはまず最初に肩書きを重んじる性質だから。

問八 線④「うん」にこめられた気持ちとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 喜び
- イ 無関心
- ウ 不満
- エ 失望

問九 線⑤「はじめから、なんとなく相性が悪いみたいだった」とあるが、なぜそう感じたのですか。文中の言葉を使って、四十五字以内で答えなさい。

問十 ー線⑥「うれしくはなかった」とありますが、なぜそう思ったのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア テームズがどんなに利口だろうとかわいげがないから。
  - イ 何人もテームズをほめるので、おもしろくなかったから。
  - ウ テームズから自分がばかにされると思っているから。
  - エ 本当はベットショップの黒い犬を飼いたいと思っているから。
- 問十一 ー線⑦「ママからパパに伝わったらしい」と考える根拠(もと)となる理由)は、パパのどんな会話からですか。それを探して、最初の五字をぬき出しなさい。

- 問十二 ー線⑧「父親に、働いている蟻を見せつけられ」とありますが、ここで父親の伝えたい内容として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
- ア 仲間とともに働こう。
  - イ 暑さに負けるな。
  - ウ 大小には関係ない。
  - エ どんな時でも努力しよう。

問十三 ー線⑨「これはいい」とありますが、そう思った理由を文中より三十文字以内で探し、その最初の五字をぬき出しなさい。

問十四 ー線⑩「これはいい」とありますが、そう思った理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 暑さをしのげるから。
- イ 少し疲れていたから。
- ウ 本が読みたかったから。
- エ 散歩をさばれるから。

問十五 本文内容と合わないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ぼくが望んでいるのは、自分をわかってくれる仲間である。
- イ ぼくは気が進まないとなまけてしまう性質がある。
- ウ ママはいつでもぼくのことを尊重する、よき理解者である。
- エ ママはいつでも姿形を大切にし、犬に対しても同様である。
- オ パパとぼくは、考え方のちがいであまりしっくりっていない。

# 国語解答用紙

(第二回)

受験番号

番  
氏 名

一

問一

a
b
c
d
e

問二

問三
I
II

問四


問六


問八

(2)	(1)

問九

--

二

問一

a
b
c
d
e

問二

1
2
3
4
問三
I
II

問四


問五

--

問六


問七

--

問八

--

問九


問十

--

問十一


問十二

--

問十三


得 点

解答

□

- 問1 a 難 b 熟練 c 定義 d 典型 e 形態  
問2 エ  
問3 I ウ II イ  
問4 ほかの動物との差別化を図るため。  
問5 ア・ウ  
問6 彼は意味記  
問7 人間の個性というもの  
問8 (1) 意味記憶がすぐれた人間  
(2) (例) 運動技能反射がすぐれた人間  
問9 ウ

□

- 問1 a 痛 b 鳴 c 輸入 d 盛夏 e 境内  
問2 I ウ II エ III イ IV カ  
問3 I カ II イ  
問4 パパから聞  
問5 イ  
問6 (例) 血統書などどうでもいい、と言ふこと。  
問7 エ  
問8 イ  
問9 (例) テームズは、はじめての散歩のとき、見送るパパを見て、すぐ歩きだそうとしなかったから。  
問10 ウ  
問11 きのうちも学  
問12 エ  
問13 犬じまんの  
問14 エ  
問15 ウ